

## 狂言学習：お稽古 3 日目《NO.2》

子どもたちの表現は、1 回目よりも 2 回目、2 回目よりも 3 回目と、どんどん上達しています。演目を通す時間も、どんどん短くなってきています。



聴いている方を説得できるように言うには、どうしたらいいでしょうか。



言葉をゆっくりと言うと、伝わっていきます。

柱を越えたら、危険地帯です。附子の風に当たるかもしれない！



一旦体を沈めて、肩越しにのぞく。覗き見る感じで、半分重心を残す。怖いものを見ている感じを表します。  
 言葉が早口になる人は、動きも早くなる。こんなにゆっくり言っているのかというぐらいがいい感じの速さです。

「なごりの袖を振り切って・・・」  
 次郎冠者は太郎冠者の腕をしっかり握るように。





最初は、**そーっと1回だけ食べる**。この時は、『附子』が**初めから砂糖だとはわかっていない**ときです。  
**1回目の食べ方と2回目の食べ方は違います。**

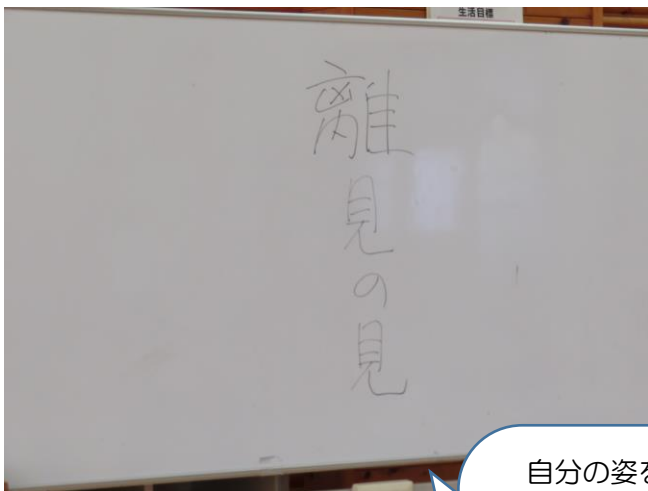


「・・・附子のそばへ寄りよる・・・」**聴いている人に伝わるように説明をする。**

リレー式でつないでいるので、前の人の位置をよく見ておくようにしましょう。  
『附子』の取り合いの場面では、こける場面が印象に残っていたのだと思います。こけるのがおもしろいのではなく、リズムが崩れてバランスを崩すから、おもしろいのです。バランスを崩した結果、こけることになるのであって、初めからこけようとするではありません。同じリズムで食べているから、(『附子』がなくて)バランスを崩してしまうのです。こけ方をちゃんとしないとイケません。



## 世阿弥のことばを 教えていただきました



『離見の見(りけんのけん)』  
 離れたところで見ろ。もう一人の自分がみているということで、能楽師は、『離見の見』を大事にしているそうです。  
 「自分は、人にどのように見えているのだろうと考える」ことが大事なのです。

自分の姿を左右前後から、よくよく見なければならぬ。これが、「離見の見」です。「見所同見(けんじょどうけん)」とも言われます。見所は、観客席のことなので、客席で観ている観客の目で自分をみなさいということです。

私たちは、狂言の稽古を通じて、普段の生活でも大切なことを、たくさん教えていただいています。例えば、話し方もそうです。普段からことばを大切に伝えたい気持ちを届けようと話すことが大事です。「離見の見」もそうです。いつも自分中心に物事を考えるのではなく、離れた所から自分の行為(所作)を冷静に観ること(客観的に観ること)も大事だと教えていただいています。